

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業）
分担研究報告書

疾病の普及・啓発・患者会設立部会報告

研究分担者

国立病院機構近畿中央呼吸器センター 新井 徹（分科会長）
神奈川県立循環器呼吸器病センター 小倉高志（副分科会長）

研究要旨

【背景と目的】疾患（間質性肺炎/肺線維症）の啓蒙と普及、患者と介護者の教育と支援のため間質性肺炎/肺線維症勉強会開催する。また患者からの実態情報収集とフィードバックのため、勉強会時に患者アンケート詳細を行った。これを通じて患者会の支援を行う。【結果】2023年11月26日、第11回 間質性肺炎/肺線維症勉強会をハイブリッド形式で開催し、現地参加340名、延視聴回数495回であった（担当 神奈川県立循環器呼吸器病センター 小倉高志先生）。参加者に対してアンケート調査を行った。

【結論】アンケート結果は別に報告する（自治医科大学 坂東政司先生）。

A. 研究目的

疾患の普及・啓発・患者会設立部会では以下の目的で活動している。(1) 疾患（間質性肺炎/肺線維症）の啓蒙と普及。(2) 患者と介護者（特にパートナー、家族等）の教育と支援。(3) 患者からの実態情報収集とフィードバック。(4) 患者会の支援。

B. 研究方法

(1) 第11回間質性肺炎/肺線維症勉強会を開催（小倉高志先生開催、図1）

日時：2023年11月26日13:00-16:00

場所：新都市ホール（横浜市西区高島2-18-1、新都市ビル9階）新型コロナウイルス感染拡大のため現地開催が実施できていなかったが、2023度は現地参加とバーチャル開催を組み合わせたハイブリッド開催を行った。

対象：間質性肺炎、肺線維症（特発性間質性肺炎、膠原病肺、慢性過敏性肺炎など）の患者・家族・友人・支援者、医療関係者。

第11回勉強会担当：神奈川県立循環器呼吸器病センター 小倉高志先生。

(2) 患者アンケート調査（自治医科大学 坂東政司先生担当）

(3) 今後の勉強会の開催について検討。

C. 結果

1) 第11回間質性肺炎/肺線維症勉強会を開催（図2）
関東地区の間質性肺炎/肺線維症患者会を中心に全国から340人の現地参加、YouTubeで配信を行い、ライブ瞬間最大数171件、延べ視聴回数495回であった。
勉強会の内容は一部を動画コンテンツとして配信している。

【プログラム】

総合司会

神奈川県立循環器呼吸器病センター 織田恒幸

開会のご挨拶

神奈川県立循環器呼吸器病センター 小倉高志

第1部 医師による講演

司会：東邦大学大森病院呼吸器内科 本間 栄
厚生省びまん性間質性肺炎に対する取り組み

浜松医科大学第二内科 須田隆文

間質性肺炎の診断と治療

自治医科大学呼吸器内科 坂東政司

司会：NH0 近畿中央呼吸器センター臨床研究センター 新井 徹

膠原病と間質性肺炎について

神奈川県立循環器呼吸器病センター呼吸器内科 馬場智尚

新薬開発の動向

神奈川県立循環器呼吸器病センター 小倉高志

第2部 日常生活について

司会：公立陶生病院呼吸器アレルギー疾患内科 近藤康博

間質性肺炎のリハビリテーション

神奈川県立循環器呼吸器病センター 主任理学療法士 町田 輝

栄養のはなし

神奈川県立循環器呼吸器病センター 管理栄養士 岩田雅美

司会：NH0 近畿中央呼吸器センター臨床研究センター 井上義一

間質性肺炎の日常生活の過ごし方

神奈川県立循環器呼吸器病センター 慢性呼吸器疾患専門看護師 和田 希

患者会参加して下さい

間質性肺炎患者会東日本支部長 片山昌平

質問コーナー

神奈川県立循環器呼吸器病センター
北村英也、織田恒幸

第11回 間質性肺炎/肺線維症勉強会

入場無料（事前予約制）

日時 令和5年 11月26日（日）
13時～16時00分（開場12時30分）
同日患者会を10:30～12:00に開催します

会場 新都市ホール
横浜市西区高島2-18-1 横浜新都市ビル（そごう横浜店）9階

対象 患者さん、家族、友人、支援者、医療関係者など

内容 間質性肺炎、肺線維症の診断・治療について（医師の講演）
呼吸リハビリ、栄養、日常生活の注意点について
（看護師、理学療法士、管理栄養士、患者さんの講演）
質問コーナー

定員 400名（事前予約制）、YouTubeLiveでの生配信も行います
※定員になり次第、締め切らせていただきます。お申し込みは速やかください。

交通

【電車でお越しの場合】
● 1 横浜駅下車徒歩5分
横浜駅東口より地下道ポルタを通り、
そごう店のエレベーター・エスカレーターで9階にお上がり下さい。

【バスでお越しの場合】
● 横浜駅東口バスセンター1階1階 横浜駅東口
（横浜駅東口バス・東横線バス・神奈川中央交通）
エレベーターで9階にお上がり下さい。

【お車でお越しの場合】
● 首都高速横浜線 横浜駅東口ランプより約1分
横浜駅東口ランプより約10分
● 第三京浜 三ツ沢ランプより約15分
横浜駅東口地下駐車場が便利です。
※会場では駐車場の割付サービスはございません。

【主催】 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等研究費助成事業「びまん性肺疾患に関する調査研究」
地方独立行政法人神奈川県立循環器呼吸器病センター

【問合せ先】
〒236-8651 神奈川県横浜市金沢区富岡東6-16-1
地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立循環器呼吸器病センター 総務課
TEL: 045-701-9581（代表） FAX: 045-786-4770（直通） Mail: ip.kanjikai@kanagawa-pho.jp

図 1

第11回 間質性肺炎/肺線維症勉強会 プログラム

総会司会 神奈川県立循環器呼吸器病センター 呼吸器内科医長 織田 恒幸

13:00～13:05 開会のご挨拶

第1部 医師による講演 司会：東邦大学大森病院呼吸器内科客員教授 本間 栄

13:05～13:20 厚生省びまん性肺疾患に関する取り組み

13:20～13:40 間質性肺炎の診断と治療 自治医科大学呼吸器内科教授 坂東 政司
司会：NHO近畿中央呼吸器センター臨床研究センター長 新井 徹

13:40～14:00 膠原病と間質性肺炎について 神奈川県立循環器呼吸器病センター呼吸器内科部長 馬場 智尚
司会：神奈川県立循環器呼吸器病センター所長 小倉 高志

14:00～14:20 新薬の開発の動向 神奈川県立循環器呼吸器病センターアレルギー・免疫内科部長 近藤 康博

第2部 日常生活について 司会：公立陶生病院呼吸器アレルギー・免疫内科部長 近藤 康博

14:35～14:50 間質性肺炎のリハビリテーション 神奈川県立循環器呼吸器病センター主任理学療法士 町口 輝
司会：神奈川県立循環器呼吸器病センター管理栄養士 岩田 雅美

14:50～15:05 栄養のはなし 司会：NHO近畿中央呼吸器センター臨床研究センター 井上 義一

15:05～15:20 間質性肺炎の日常生活の過ごし方 神奈川県立循環器呼吸器病センター慢性呼吸器疾患専門看護師 和田 希

15:20～15:35 患者会参加して下さい 間質性肺炎患者会日本支部長 片山 昌平

15:35～15:55 質問コーナー 神奈川県立循環器呼吸器病センター呼吸器内科医長 北村 英也 織田 恒幸

15:55～16:00 閉会のご挨拶

申込方法 令和5年11月20日締切 定員になり次第締め切らせていただきます
以下の申込必須記載事項にご記入の上、いずれかの方法でお申し込みください
郵送：〒236-0051 神奈川県横浜市金沢区富岡東6-16-1
FAX：045-786-5965 メール：ip.kanjikai@kanagawa-pho.jp
神奈川県立循環器呼吸器病センター 間質性肺炎勉強会担当窓口

申込者氏名
ご連絡先
住所
TEL FAX
メールアドレス

●患者会（同日・同会場10:30～12:00予定）に
参加されますか？
参加する ・ 参加しない

酸素吸入の有無 有 ・ 無
（安静時： 〇分/分、労作時： 〇分/分）
車椅子の利用 有 ・ 無

●当日の参加方法 会場 ・ 配信
●質問コーナーで取り上げて欲しい質問

図 2

2) アンケート調査

自治医科大学の坂東政司先生に送付。解析、報告の予定。

3) 今後の勉強会の開催について

来年度は、公立陶生病院主催にて開催予定。東日本、中部、西日本以外の開催を検討したが、現時点では時期尚早との結論となった。

D. 考察

当日アンケート調査が実施された。アンケート結果に関しては、自治医科大学 坂東政司先生にて別に集計が行われ、報告予定である。今後、勉強会の開催地区の拡大、患者会の統合に向けた調整が必要と考えられる。

E. 文献

特記事項なし

F. 健康危険情報：なし

G. 研究発表

1. 論文発表：

1) Arai T, Kurahara Y, Moda M, Kobayashi T, Matsuda Y, Kagawa T, Sugawara R, Tsuyuguchi K, Inoue Y. COVID-19 in Patients with Pre-Existing Interstitial Lung Disease: Potential Value of a Steroid-Based Treatment Strategy. J Clin Med. 2023 Jul 27;12(15):4940.

2) Arai T, Takimoto T, Takeuchi N, Minomo S, Kagawa T, Inoue Y. Neutrophil-to-Lymphocyte Ratio in Acute Exacerbation of Idiopathic Pulmonary Fibrosis. J Clin Med. 2023 Nov 30;12(23):7446.

3) Takimoto T, Yanagisawa A, Arai T, Inoue Y. Vocal cord paralysis associated with pleuroparenchymal fibroelastosis: A case report and literature review. Respir Investig. 2023 Sep;61(5):548-552.

4) Shimaya M, Inagaki Y, Arai T, Kawakami M, Takeuchi N, Sumikawa H, Shimizu S, Takimoto T, Inoue Y. Autoimmune Pulmonary Alveolar Proteinosis Complicated by Myelodysplastic Syndrome: A Case Report. Intern Med. 2023 Oct 13. doi: 10.2169/internalmedicine.1982-23. Epub ahead of print. PMID: 37839886.

5) Yanagisawa A, Takimoto T, Shintani R, Kobayashi T, Hirose M, Arai T, Inoue Y. Autoimmune Pulmonary Alveolar Proteinosis That Improved after a COVID-19 Episode. Intern Med. 2023 Aug 1;62(15):2237-2241.

6) Moda M, Arai T, Takeuchi N, Kagawa T, Takimoto T, Sumikawa H, Shimizu S, Inoue Y. Fibrotic Hypersensitivity Pneumonitis Diagnosed by a Re-

evaluation with Bronchoalveolar Lavage at Disease Deterioration. Intern Med. 2023; 62(4):577-582.

7)Yanagisawa A, Takimoto T, Kurahara Y, Tsuyuguchi K, Yoshida S, Hirose M, Inoue Y, Arai T. A Case of Lymphangiomyomatosis Showing the Development of Mycobacterium abscessus subsp. massiliense Infection During Sirolimus Therapy. Intern Med. 2023 Nov 27. doi: 10.2169/internalmedicine.2847-23. Epub ahead of print. PMID: 38008448.

8)Takimoto T, Takeuchi N, Inoue Y, Arai T. Vocal cord palsy in interstitial lung disease: Involvement of architectural distortion by pleuroparenchymal fibroelastosis. Pulmonology. 2024 Jan 31:S2531-0437(24)00001-1.

9)Osaki M, Arai T, Sumikawa H, Takimoto T, Takeuchi N, Tamiya A, Okishio K, Inoue Y. Immune Checkpoint Inhibitor-Related Pneumonitis in Lung Cancer Patients with Interstitial Lung Disease: Significance of Radiological Pleuroparenchymal Fibroelastosis. Oncology. 2023;101(5):303-312.

10)Tachibana K, Akira M, Arai T, Sugimoto C, Hayashi S, Inoue Y. Poor Outcome and Mortality in Patients with Lower Lung-Dominant Sarcoidosis. Can Respir J. 2023 Apr 15;2023:3624344. doi: 10.1155/2023/3624344. PMID: 37096167; PMCID: PMC10122593.

11)Kobayashi T, Tsuyuguchi K, Shimatani Y, Matsuda Y, Kagawa T, Takimoto T, Takeuchi N, Arai T, Inoue Y. Utility of a loop-mediated isothermal amplification detection kit to

diagnose chronic pulmonary aspergillosis. J Infect Chemother. 2024 Jan;30(1):7-11.

12)Kobayashi T, Tsuyuguchi K, Yoshida S, Arai T, Inoue Y. Cases of severe Mycobacterium avium lung disease occurred in a married couple caused by identical strain. J Infect Chemother. 2023 Aug;29(8):812-815.

13)Takimoto T, Sumikawa H, Arai T, Inoue Y. Left Vocal Cord Paralysis in Idiopathic Pleuroparenchymal Fibroelastosis: A Case Report. JMA J. 2023 Apr 14;6(2):220-222.

2. 学会発表

1)新井 徹. 間質性肺疾患急性増悪診断基準の検討: 国立病院呼吸器ネットワークによる間質性肺疾患急性増悪症例の前向きコホート研究(AEILD study). 第63回日本呼吸器学会学術講演会 東京 2023年4月29日

2)新井 徹. 自己免疫性肺胞蛋白症に対する全身麻酔下片肺全肺洗浄術の実際～多職種連携に向けた, 全肺洗浄パスの作成～. 第63回日本呼吸器学会学術講演会 東京 2023年4月28日

3)新井 徹. 末梢血 neutrophils/lymphocytes(N/L)比と特発性間質性肺炎急性増悪の予後. 第63回日本呼吸器学会学術講演会 東京 2023年4月29日

4)新井 徹. 末梢血 neutrophils/lymphocytes(N/L)比による特発性間質性肺炎急性増悪の予後予測. 国立病院総合医学会 広島 2023年10月6日

5)新井 徹. 進行性肺線維化を呈し、抗線維化薬投与を行った自己免疫性肺胞蛋白症合併サルコイドシスの2例 第43回日本サルコイドシス肉芽腫学会 浜松 2023年10月6日

H. 知的財産権の出願・登録

